

	「なごや歴まちびとの会」	日時	平成 25 年 12 月 5 日（木） 10：00～11：30	
		場所	名古屋市千種区宮の腰町 1-33	旧第一ポンプ場
鍋屋上野浄水場 見学会報告書				

師走に入り気温はめっきり冬らしくなってきましたが、穏やかな陽ざしに温かさを感じる恵まれた天候のもと、第3回なごや歴まちびとフォローアップ講座、鍋屋上野浄水場の見学会が12月5日（木）に開催されました。

私たちは地中にはり巡らされた配管を含め、水道施設を目にする機会はほとんどないので、そのインフラの全体像や敷設当時の苦勞、整備にかかる労力など気に留めることはまずありません。しかし一方でローマ水道橋や南禅寺水路閣など観光資源として人びとを魅了する水道施設が多いのも事実で、それは建設当時の困難さとそれを克服しようとする気概や情熱が、機能性だけにとどまらず意匠面にまで昇華されているからではないでしょうか。今回見学対象となる旧第一ポンプ所にも同じような魅力が感じられます。

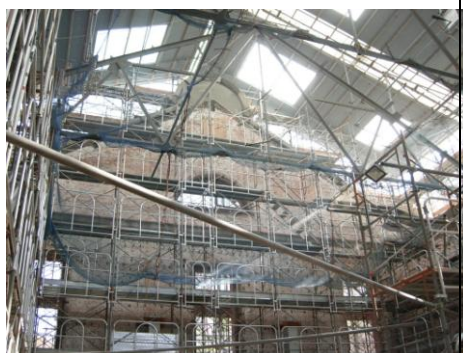
当日、本館でのあいさつと施設概要説明のあと、まずは職員のご説明とともに沈でん池からろ過池へと見学が行われました。浄化順に眺めていくことで、取水された河川水の汚れが薬品の凝固作用により取り除かれて、徐々に水が澄んでいく様子がよくわかります。ろ過池にはろ過速度の異なる、緩速ろ過池と急速ろ過池があり、前者は構造上広大な敷地が必要なことから大都市にはめずらしいとのこと。現在、更新工事のため運転休止中ですが、急速ろ過池と春日井浄水場からのバックアップにより配水能力に問題はないそうです。

次に本館に戻り工事概要説明を受けたあと、旧第一ポンプ所の復元改修現場へと移動しました。建物外部には丁寧に取り外されたタイルやモルディングなどが整理して並べられており、復元工事特有の既存材料に対する繊細な心遣いが伝わってきます。建物内に足を踏み入れ上部を見渡すと、内部足場の存在ではっきりとした全体像は把握できないものの、全面撤去された既設屋根上の素屋根あかり取りから降りそそぐ太陽光が、漆喰やタイルの化粧を落としたレンガ積み壁面を照らして、あたかも荘厳な遺跡のような雰囲気です。いっぼう視線を落としていくと、耐震補強のためレンガ壁に取り付けられた頑強な鉄骨柱や足もとの巨大な基礎鉄筋が圧倒的な存在感で目に飛び込んできます。桁行方向の壁は一段目の窓の上部にクレーンレールが敷かれていた納まり上、その下部の壁厚は相当なものですが、それでも面外方向への倒れ防止や水平ブレースの補強は必要不可欠とのことです。間仕切壁のような控え壁の役割をはたす要素がないと組積造は耐震的になかなか厳しいということでしょうか。鉄骨補強材の内部空間に与える視覚的影響が大きいだけに気になるところです。

地震や風雨などの自然環境のほかに社会的な変遷、特に戦争は建物に多大な影響を与えます。南側法面にはかつて防空壕があったこと、東側レンガ外壁面には爆撃の破片痕がみられること、最近の不発弾処理など様々なお話をうかがいました。外壁の破片痕は補修してきれいにするのではなく、戦争の痕跡を後世に伝えるため敢えてそのままの状態に残しておくそうです。

浄水場施設としてはその他に、同じく平成24年に市指定有形文化財に指定された旧計量室（東山配水場内施設）、昭和初期の鉄筋コンクリート造の旧第二ポンプ所など文化的価値の高い建造物が存在しますが、市民からもっとも親しまれているのは、その視認性のよさもあり東山給水塔ではないかと実感しております。旧第一・第二ポンプ所というすばらしい文化遺産もより多くの方々に認識・体感されるよう、周辺を公園として開放するなどして、イベントや見学会以外でも気軽に立ち寄れるような整備がなされれば、歴史的建造物に対する市民の方々の理解ももっと深まるのではないかと期待します。

なごや歴まちびと 大橋俊夫



内部見上げ



補強鉄骨柱脚と基礎



爆撃の破片痕